

二〇二三年 第二回 一橋大本番レベル模試 国語

解答・採点基準

全3問 100分 100点満点

問題一 (40点)

〈現代文 大庭健「技術と欲望―ニーズに応えるという陥穽」〉

解答

問い一 A 加齢 B 刑罰 C 処遇 D 対極 E 伝授

問い二 病苦の回避や、心身の能力や性格・人柄に対する劣等感や自己嫌悪からの解放の希求。
(三九字)

問い三 呼応関係のなかで相手に映る像を自分として理解し、それを引き受けて存在するから。
(三九字)

問い四 補修の欲求が前提とする優勝劣敗の原理が人間存在の基層をなす相互補完的な協働と
軋轢を引き起こすこと。(四九字)

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「X」という内容（**?点**）の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がY」という**論理関係**になっていなければ、**?点減点**の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない（Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない）。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問一 各2点 計10点

A 加齢 B 刑罰 C 処遇 D 対極 E 伝授

* 部分点なし。

問二 9点満点

1. 病苦の回避、という内容（3点）

* 「体質改善の欲求」などの具体的な記述も含め、多様な表現を許容する。

2. 心身の能力に対する劣等感の解消、という内容（3点）

* 「運動能力、知能、美的能力」など、多様な表現を許容する。

* 「心身の能力に対する」などの限定がない単なる「劣等感の解消」の場合は不可。

3. 性格・人柄に対する自己嫌悪からの解放、という内容（3点）

* 「モラル」など、多様な表現を許容する。

* 「性格・人柄に対する」などの限定がない単なる「自己嫌悪からの解放」の場合は不可。

* 解答が四〇字以内に収まっていない場合は**0点**。

問三 10点満点

1. 呼びかけられ・応じられる関係のなかで、という内容（3点）

* 「呼応関係」などの表現でも可。

2. 相手に映っているであろう像を、自分の姿として引き受けて行く、という内容（4点）

* 単に「自分の存在を一人称で理解する」などの表現は不可。

3. 2のような自己理解のもとで存在する、という内容（3点）

* 「2のような自己理解が人間存在の本質である」などの表現も可。

* 2が適切に解答できていない場合は不可。ただし、2の代わりに「自分の存在を一人称で理解しながら（存在している）」などと解答している場合は、3のみ加点。

* 文末が「〜から」「〜ので」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていないければ、1点減点。

* 解答が四〇字以内に収まっていない場合は0点。

問い四 11点満点

1. 補修の欲求が優勝劣敗の原理を前提とする、という内容（4点）

2. 相互補完的な協働が人間の本性にある、という内容（4点）

* 「相互補完的な協働が人間存在の基層をなす」など、多様な表現を許容する。

3. 優勝劣敗の原理が相互補完的な協働と軋轢を引き起こす、という内容（3点）

* 「優勝劣敗の原理と相互補完的な協働とが対立する」など、多様な表現を許容する。

* 解答が五〇字以内に収まっていない場合は0点。

問題二 (30点)

〈近代文語文 北村透谷 「国民と思想」〉

解答

問い一 ア 私は深くこの道理を感じずにはいられない

イ どうして一朝一夕に動かし去ることができるだろうか (いや、できない)

問い二 いかなる思想も、絶えざる競争によって退けられないことはないということ。(三五字)

問い三 過去の思想を顧みつつも固執せず思想に流動をもたらし、東西の思想いずれにも偏らない案内役として国民に生気をもたらす思想家。(六〇字)

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**減点法**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「X」という内容（**?点**）の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がY」という**論理関係**になっていなければ、**?点減点**の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけ**を判断の対象にする。つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない（Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない）。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択**で判断すること。誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問い一

ア 4点満点

1. 私は、という内容がなければ、**1点減点**。
 - * 「吾人」を一人称の代名詞として訳していればよい。
2. 深くこの道理を、という内容がなければ、**1点減点**。
 - * 「此」を「この（此の）」と訳していなければ、不可。
 - * 「理」は、そのまま「理」としていてもよいし、「道理」「条理」「ことわり」などと言い換えていてもよい。
3. 感じずにはいられない、という内容がなければ、**3点減点**。
 - * 「ずんばあらず」を「**せ**ずにはいられない」「**し**ないわけにはいかない」と訳していなければ、不可。

イ 4点満点

1. どうしてだろうか（いや、できない）、という内容がなければ、**2点減点**。
 - * 「豈にくや」を「**反語**」として訳していればよい。
2. 一朝一夕に動かし去る、という内容がなければ、**1点減点**。
 - * 「一朝一夕」は、「わずかな時間で」など、四字熟語の意味から外れない範囲で意識して「**ら**」でもよい。
3. できる（だろう）か（いや、できない）、という内容がなければ、**2点減点**。
 - * 連語「べけん」を「**可能**」ないし「**当然**」の意味で訳していればよい。
 - * 当然の訳出例としては、「動かし去るはずがない」、「動かし去るだろうか、いやそのはずはない」などがある。

問い二 10点満点

1. (思想の) 競争、という内容がなければ、3点減点。

* 「競争」に当たる語が解答に含まれており、それが思想の争いを指していることが解答全体から読み取れればよい。「運動」は「争い」のニュアンスが読み取れないため不可。

2. 1には限りがない、という内容がなければ、3点減点。

* 「永久」「絶えざる」「終わりが無い」など、本文一三行目「限りなき」を適切に言い換えられていればよい。

3. 1によって、いかなる思想も退けられる、という内容がなければ、4点減点。

* 「いかなる」にあたる語(「あらゆる」など)の代わりに、「思想は必ず退けられる」といった表現を用いてもよい。

* 「新しい思想に取って替わられる」など、競争の場を「去る」ことを説明できていれば、幅広い表現を許容する。

* 「どういふことか」という問いに答える形の文章になっていない場合、1点減点。

* 解答が三五行以内に収まっていない場合は10点減点。

問い三 12点満点

1. 過去(過去の思想、過去の勢力)を軽視しない、という内容がなければ、2点減点。

* 「軽視しない」は、「顧みる」など裏返しの表現でもよい。

2. 過去にこだわらない、という内容がなければ、1点減点。

3. 思想に流動をもたらす、という内容がなければ、2点減点。

* 「創造的勢力」の語を用いてもよいが、「流動」にあたる語がなければ不可。

4. 東西(東洋と西洋)の思想いずれにも偏らない、という内容がなければ、2点減点。

* 東西の思想のいずれにも「執着」ないし「心酔」しないことが読み取れれば、幅広い表現を許容する。

5. 4によって、国民を先導する、という内容がなければ、2点減点。

* 「国民」の心を安らう「舟師」の比喻を踏まえた表現になっていれば、幅広い表現を許容する。

6. 国民に(進歩的) 生氣をもたらす、という内容がなければ、3点減点。

* 「どのようなものか」という問いに答える結び方になっていなければ、1点減点。

* 解答が六〇字以内に収まっていない場合は12点減点。

問題三 (30点)

〈現代文(要約) 船木亨『現代思想史入門』〉

解答

価値は絶対的なものではなく、たえず変遷する流行現象と変わらない相対的なものとなり、人の快楽をいかにして自らも経験するかの問題となった。同時に個性も、用意された選択肢からその場での選び方の問題となった。価値や個性として肯定されるのは、今や内実ではなく、経験の中で結果として残ったものである以上、人生はその諸断片の散乱となり、〈わたし〉もだれにとってもあるような一般的経験の諸瞬間のことになってしまう。(二〇〇〇字)

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ **加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「Xという内容（?点）」の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がYという論理関係になっていなければ、**?点減点**」の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない（Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない）。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問い **30点満点**

1. **主観的にせよ客観的にせよ、従来あったような絶対的な価値というものがなくなったこと、という内容（4点）**
 - * 「絶対的な価値」の内実として筆者は主観的なものと客観的なものを想定しているが、両方とも書いていない場合でも減点しない。
 - * ただし、「絶対的な価値」を客観的なもののみと誤解している場合は、**2点減点。**
2. **価値が、時間とともにたえず変遷するような相対的な流行現象と変わらなくなってしまったこと、という内容（5点）**
 - * 価値が絶対的なものから相対的なものに変ったということが表現できていない場合は、**2点減点。**
 - * 「流行現象」という言葉を用いていなくても、価値が絶対的なものから相対的なものに変ったということが記述できていれば減点しない。
3. **その内実として、人の快楽を自分のものとして経験すること、という内容（4点）**
 - * 社会で生じている流行現象を体験して自らもそれを快として感知するという趣旨の内容が書かれていれば、表現にかかわらず加点する。
4. **個性が用意された選択肢からのその場での選び方の問題に還元されていること、という内容（4点）**

* 個性が〈わたし〉という主体の属性であるかのような勘違いをしている場合は**2点減点**。

5. 価値や個性と呼ばれているものは、もはやその内実ではなく、結果として残ったものであること、という内容（**4点**）

* 前項目同様、価値や個性が〈わたし〉という主体の属性であると勘違いしている場合は、この項目では加點しない。

* 逆に、経験した結果から〈わたし〉の価値や個性がでてくるという理解がなされている場合は、この項目で加點してよい。

6. 〈わたし〉やその人生も、だれにとってもあるような**一般的経験の諸瞬間**、あるいは（その結果としての）**諸断片のとりとめのない散乱に過ぎないものである**、という内容（**9点**）

* 〈わたし〉という主体が確固たるものとして先にあるという理解の答案には加點しない。

* 〈わたし〉が経験するのではなく、経験した諸断片の結果の、その場その場の集まりが〈わたし〉であると理解できている場合は、この項目で加點してよい。

* 「一般的経験の諸瞬間」あるいは「諸断片のとりとめのない散乱」は、これらのうちどちらか一方が書かれていればよい。

* 「一般的経験の諸瞬間」あるいは「諸断片のとりとめのない散乱」は、〈わたし〉に属するものではなく、誰にとってもあるような一般的なものであるという理解が出来ていない場合は、**4点減点**。

* 「一般的経験」ないし「諸断片」を、時間的蓄積を経てまとまっていった〈わたし〉をかたちづくる経験のように捉えてしまっている場合は**4点減点**。

* 解答が**二〇〇字以内**に収まっていない場合は**0点**。